

L02a            **アイソン彗星：偏光観測の結果から**

古庄 玲子 (都留文科大学/国立天文台), 寺居 剛, 渡部 潤一 (国立天文台)

アイソン彗星 (C/2012 S1 (ISON)) は 2012 年 9 月に日心距離 6.3 天文単位という木星軌道より遠方で発見され、発見時の光度とサングレーザーであることから非常に明るくなると期待された。

我々は、国立天文台 (三鷹) 50cm 社会教育用公開望遠鏡に偏光撮像装置 PICO を取り付け、アイソン彗星の継続的な偏光撮像観測を行った。観測は近日点通過前の 2013 年 10 月 26 日 ~ 11 月 5 日の約 10 日間行い、彗星の散乱位相角約  $45^\circ$  から  $59^\circ$  の間でのデータを得た。しかしながら、近日点通過直前に彗星本体が崩壊してしまったため、近日点通過後の観測は行えなくなった。

発表では、この彗星の偏光度の位相角依存性を報告し、彗星コマ中の偏光度分布についても考察する。さらに、過去に同装置で観測された他の彗星との比較議論も行う。